

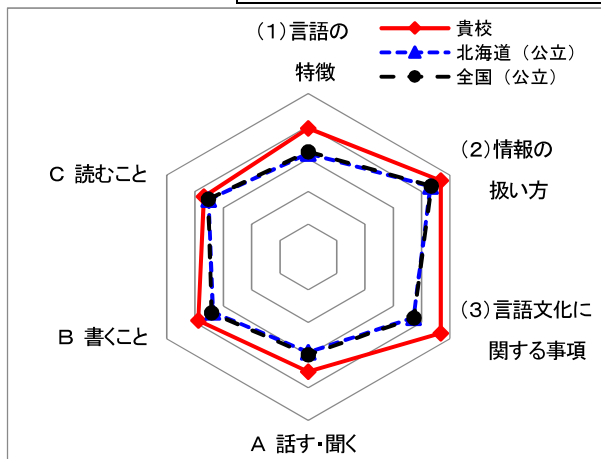
令和6年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

江別市立大麻泉小学校

4月18日に実施した令和6年度全国学力・学習状況調査について、本校の概況をお知らせします。学校では、結果からわかる成果と課題に基づき、今後もすべての教科における「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善や、家庭・地域との連携に基づく望ましい学習習慣、生活習慣の確立を大切にしていきます。

1. 各教科の調査結果から

(1) 国語の結果 **平均正答率は全国平均を上回っています。**



学習指導要領の内容に照らすと、グラフ項目の(1)～(3)は「知識・技能」、A～Cは「思考力・判断力・表現力」に関する内容です。内容別ではすべての項目で全国平均を上回っていました。

特に「言語の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」が高い正答率でした。「読むこと」に関して、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力に課題が見られます。

全体的に無解答が少なく、問題に対して解答を導き出そうとする意欲の高さが読み取れます。

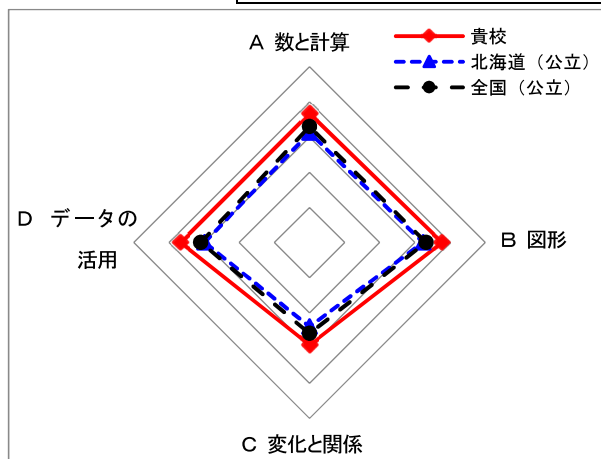
□全国平均と比較してよくできていた問題

- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる問題

■全国平均と比較してやや課題が見られる問題

- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題

(2) 算数の結果 **平均正答率は全国平均を上回っています。**



学習指導要領の領域別では「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のすべてで全国平均を上回りました。特に「データの活用」では既習事項の学習がしっかり定着していると言える結果でした。

「図形」については、全国平均を上回っているものの、本校の平均正答率は58.2%となっているため、既習事項の定着が課題です。

記述式問題の正答率は、継続してきた学習の成果が現れ、全国平均を大きく上回りました。

□全国平均と比較してよくできていた問題

- 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

■全国平均と比較して課題が見られる問題

- 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題

2. 児童質問紙の調査結果から

(1) 全国平均を上回っている項目で特徴的なもの

項 目		R6 結果(%)	全国比
・自分には、よいところがあると思いますか		91.3	+7.2
・5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか		93.4	+9.1
・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか		91.3	+10.5
・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか		97.8	+9.9
・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか		93.4	+9.2
ICT 機器 の 活 用	・自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	95.7	+10.2
	・楽しみながら学習を進めることができる	95.7	+9.7
	・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	89.1	+9.9
	・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	95.6	+9.5

(2) 全国平均を下回っている項目で特徴的なもの

項 目		R6 結果(%)	全国比
・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか		60.8	-6.3
・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		71.8	-11.7
・算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか		69.5	-8.4
・算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか		52.2	-11.4

3. 今後に向けて

<学習において>

- 課題の解決に向けて自分で考え、話し合う活動を通して自分の考えを深め広げながら振り返り「わかる・楽しい」「考えを深める」授業をめざします。
- ノートを活用し、自分の考えを書く活動を取り入れ、いくつかの条件を設定した作文(文字数やキーワード、例文の引用など)に日常で取り組ませます。
- 電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用し、よりわかりやすい授業づくりに努めます。
- 教科で培った「見方・考え方」を働かせ、深い学びへとつなげる授業づくりと教職員の指導力の向上をめざした研修を重ねます。

<生活において>

- 学校における様々な教育活動において、児童一人一人のよさを見取り、認め励ますことで、児童の「自己肯定感」を高めていきます。
- 「いじめは絶対に許さない」という姿勢で指導にあたり、相手の立場に立って物事を考えることのできる児童の育成に努めます。
- めざすべき姿は、将来、社会に出たときにしっかりと“自立”できる人間になることです。今後も、目の前の児童にとって何が必要かを常に考え、全教職員で指導にあたっていきます。

<家庭・地域・学校運営委員会との連携において>

- 社会・地域を知る環境を整備し、関わろうとする意識を啓発していきます。